



運命は紙一重、命があるのは奇跡です

昭和20年8月15日に終結した第二次世界大戦は、数千万人の人々の生命を奪うとともに、多くの人々を不幸にしました。それから70年がたち、戦争を知らない世代が増えています。しかし、私たちは、戦争体験を風化させることなく戦争の悲惨さ、平和の尊さを将来にわたって語り継がなければなりません。

今回は、京橋駅空襲被災者慰霊祭世話人会会長(インタビュー当時)の京極俊明さんにお話をうかがいました。

「お前一人のために、全部が襲われる!」

一終戦の前日、昭和20年8月14日、城東線(現JR大阪環状線)京橋駅が空襲に遭った時、おいくつだったのですか?

府立生野中学校2年生でした。当時の様子は、今も脳裏に鮮明に焼きついていています。

空襲に襲われないように、頑丈そうな高い煉瓦塀に囲まれていて、空から見えない片町線への連絡口へ逃げ込もうとしたのですが、すでに逃げてきた人たちがぎっしり。「ここはもう一杯や! お前一人の

ために上から見られたら、ここの人全部が襲われる! よそへ行け!」と手前にいた大人から、追っ払われました。

一爆撃の瞬間を覚えていますか?

安全なところを求めて走っていると、軍刀を手にした将校に「うろろうしたら、敵機に見つかるではないか! その隅でじっとしとれ!」と言われて、土手下のような凹みに座り込みました。

その時です。「ゴォー!」という音が空から迫ってきたのは、お腹の底からえぐられるような衝撃、何かが降り注ぐのを背後に感じましたね。一瞬、目の前に家族、友人、先生等の顔が次々と走馬灯のように映ると同時に気が遠くなり…。

我にかえった時、体半分は土砂に埋まっていて、周囲は砂ぼこりで1m先も見えませんでした。

見るも無残な将校の姿に阿鼻叫喚

一目を開けて見えたものは?

早く逃げようと走りかけてつまずいたんですね。すると目の前に、先ほどの兵隊の姿が。爆風でかぶとが脱げ、あご紐

が首にくい込み、顔中血だらけでうめき声をあげたまま倒れていました。生まれて初めて見る光景に声も出ず、ひたすら安全な場所を探して逃げまどうばかりでした。左足首は腫れ上がり、後頭部は熱をもってフワフワした感じに腫れていました。「九死に一生を得た」思いで、我が家に帰りついて深い眠りについた翌日、聞きとりにくい玉音放送で、無条件降伏による終戦を知らされました。

親切にされなくても人を恨まない人生観に

一終戦後、京橋駅周辺をどんな気持ちでご覧になりましたか?

登校できるようになって、京橋と玉造の間は電車が不通だったので線路を歩きましたが、鉛のように曲がった線路は爆撃のすさまじさを物語っていました。



昭和21年6月撮影。昭和20年(1945年)8月14日の京橋駅空襲から10か月経った京橋駅。「日本国有鉄道百年写真史」より(JR西日本提供)

CONTENTS

- 2 **クローズアップ** “戦後70年特集” ~運命は紙一重、命があるのは奇跡です~
- 4 **トピックス** 8月29日(土) 第42回 城東まつり
- 6 **お知らせ** 同報無線(屋外スピーカー)の試験放送 / 「国民健康保険料のための所得申告書」の提出
子ども医療費助成の見直しについて / 外国籍のお子さんの入学手続き
- 8 **健康** 日本脳炎予防接種 / COPDの危険度チェック / 予防接種・結核健診・各種がん検診等の日程
- 9 **相談** 城東区役所での専門相談 / 市民法律相談 / 各種相談 / 精神保健福祉相談
- 10 **イベント講座** 健康JOTO☆ヘルスアップ教室 / 城東区緑のカーテン推進事業
点訳講習会・ガイドボランティア募集 / クレオ大阪東のイベント / ホールdeフェスタ
- 12 **施設だより** 区民ホールの催し物 / 城東図書館の催し物 / 子ども・子育てプラザの催し物
- 13 **城東区通信** 奥野区長のふるさと魅力再発見 / 地域活動協議会 / シリーズ・子育て支援施設
- 14 **おおさか掲示板**



京橋駅で、私が将校に呼び止められた場所には、大小無数の石塊が転がっていました。もし、まともに直撃していたらと思うと、改めてぞっとしました。

私が最初に逃げ込もうとした場所は、一発の爆弾で一瞬にして瓦礫の下敷きとなり、ほとんど全員が死亡したそうです。そこから掘り出した死体を線路の枕木を

組んだ中に入れ、火をつけて茶毘に付していた光景を今もはっきり思い出します。

あのとき、手前にいた大人が「よそへ行け!」と追い払ってくれなかったら、今の私は存在しないのです。このときの経験から、「人に親切にされなくても恨む気持ちを持たない」人生観が植えつけられたことに、感謝の気持ちで一杯です。



空襲で廃墟と化した大阪陸軍造兵廠跡(大阪歴史博物館提供)

聖賢小学校での取り組み

市立聖賢小学校では、児童会を中心に平和学習に取り組んでおり、京極さんのお話を聴きする機会もありました。

毎年8月14日に行われる京橋駅空襲被災者慰霊祭にも参列し、児童全員で心を込めて折った千羽鶴を献納し、作文を発表しています。



第60回 慰霊祭で作文を発表する聖賢小学校児童会代表の岸田陽菜さん(右)と平尾彩葉さん(左)



聖賢小学校で昨年7月と9月に行われた平和集会。児童会の子どもの報告をみんな熱心に聴きました

昨年行われた「第60回 京橋駅空襲被災者 慰霊祭」で読まれた作文

私たち聖賢小学校児童会では、戦争について調べたり、学習したりしました。私は聖賢平和集会で千羽鶴の由来をインターネットで調べ、発表しました。また、学年では、「ヒロシマには歳はないよ」という原爆を体験した佐伯敏子さんが書かれたお話を学習しました。ピース大阪見学や大阪城戦跡ウォークもしました。

そんな中でも一番心に残った学習は、京極先生から聞いたお話でした。京極先生は、食べる物がなかったから雑草パンを食べていたと、おっしゃっていました。防空ずきんも実際にかぶらせてもらいました。今でも戦争で死にそうになった高架下を通ることができないというお話が一番心に残りました。

私は京橋慰霊祭に向けて、戦争を体験した私のひいおばあちゃん二人の話を聞きました。

一人は広島のおひいおばあちゃんの話です。原爆が落とされた後、中心地に住んでいる兄を探しに行きました。その時に被爆したそうです。戦争が終わってから被爆手帳という物をもったそうです。治療してもらっていましたが亡くなってしまいました。

もう一人は大阪のおひいおばあちゃんの話です。いつも会うのでよく戦争の話を聞きます。私が驚いた話は、夜、空襲を知らせる人の声が聞こえると目をさまして防空ごうに避難したそうです。その時避難した防空ごうの真上に爆弾が落ちたそうです。もし爆発していたら亡くなっていたそうです。

私は二人のひいおばあちゃんの話聞いて、絶対に戦争はおこしてはいけなそうと思っています。

まずは身近にいる友達と仲良くすることからはじめていこうと思います。なぜなら、争いのない平和な世界にするには、思いやりの輪を広げることが大切だと思うからです。その輪を広げていけば、争いや戦争がなくなると思います。私達が思いやりの気持ちを持って、友達と仲良くすることからはじめていきたいと思っています。



京橋駅爆撃被災者慰霊碑 (JR京橋駅南口付近)

終戦前日の昭和20年(1945年)8月14日、城東線(現在のJR大阪環状線)京橋駅に1トン爆弾が命中、乗降客をはじめ駅の近辺で二百数十名もの尊い命が犠牲になりました。(実際には500名とも600名とも言われています。)

犠牲者の慰霊と平和を祈念して供養の碑や釈迦牟尼仏像が建立されました。今年も8月14日午前11時から慰霊祭が行われます。

今月の表紙

表紙の写真は、JR京橋駅南口にある平和祈念像です。京橋駅での惨事を後世に伝えるため、昭和59年(1984年)8月、釈迦牟尼仏像とともに大阪城東ライオンズクラブの寄贈により建立されました。

